

紅色イオウ細菌:ビン実験

船越カキ棚底泥400gと海水400gを900mlビンに採取し、バイオ液(EBAI)を各々50gと100g添加し、光の当たる箇所に置き、フタは開けたままにした。
下写真は実験開始48日目である。



海水を排出し半乾燥状態で底泥を割ったところ、内部まで泥が酸化されている。
この菌は日中に光を受けるため有酸素層(有光層)まで泳ぎ、夜間に水素供給基質である硫化水素を得るために地中深く移動する可能性が考えられる。
これは、光の届かないと考えられる泥中の奥深い場所でもこの菌の増殖が見られたことから推察できる。

